

2015年7月

株式会社フレンド

株式会社フレンド 薬剤師とケアマネジャーによる『残薬解消プロジェクト』発足 ～高齢者が抱える残薬・重複投与問題へ取り組む～

株式会社フレンド（本社：栃木県小山市 代表取締役社長：谷 孝裕 以下、フレンド）は、同社運営の調剤薬局事業部と在宅介護事業部の専門スタッフによるプロジェクト『残薬解消プロジェクト』を発足し、高齢化が進む昨今の社会問題となっている高齢者が抱える残薬・重複投与問題に積極的に取り組みを始めました。

本プロジェクトは、居宅（居宅療養管理指導）を行っている薬剤師3名とケアマネジャー4名の計7名からなるプロジェクトチームが先導します。当社に在籍する約60名のケアマネジャーが担当している“残薬がたくさんある”“何種類もの薬を飲んでいる”“薬のことで困っている”方々の自宅に薬剤師が同行訪問し、残薬の調整や薬の重複、飲み合わせなどを確認し、薬の整理整頓、相談、飲み忘れ対策などを行います。また、残薬はあるけれど、罪悪感があって医師に伝えられないという患者も多く、この意識改革も同時に行い、処方医や他薬局等との連携を図っていく必要があると、このプロジェクトは考えています。

厚生労働省がまとめた75歳以上の患者の薬剤費から推計すると、残薬の年総額は475億円になるといわれています。長期投薬の増加などにより、飲み忘れや飲み残し、症状の変化によって飲んでいない残薬が多量に生じており、さらに高齢化が進む中、今後、薬の管理を患者任せにしている状況は一刻も早く改めなければならないとされています。

現在、薬剤師は、訪問薬剤管理指導以外の場合、通常は薬局内でのみ薬の説明と引き渡しを行っております。また、その際に、残薬を確認することになってはいますが、その実態は分からない状況にあります。さらに、高齢者の多くは複数の医療機関を受診しており、お薬手帳の携帯を呼びかけてはいるものの完全とは言えず、似たような薬を重ねて飲んでいる方も少なくないと思われます。一方、ケアマネジャーは、利用者宅を訪問しているため、利用者の状態を把握しており残薬の実態を知る機会が多いことから、当社では、薬剤師とケアマネジャーによるプロジェクトチームを発足しこの残薬・重複投与問題を改善する取り組みを始めました。

【株式会社フレンドについて】

株式会社フレンドは、1990年に保険調剤薬局からスタートし、栃木、東京、神奈川、埼玉に計21店舗の調剤薬局を運営。また介護保険制度が施行した2000年から民間企業の一歩先駆けとして介護運営に取り組み、栃木県を中心に在宅介護事業所40事業所を展開しています。フレンド公式ホームページ <http://www.f-pw.jp/>

【本件に関する報道関係からのお問合せ先】

株式会社フレンド 広報：山口（TEL）0285-23-2228（E-mail）m.yamaguchi@f-pw.jp

【本件プロジェクトに関するお問合せ先】

株式会社フレンド 調剤薬局事業部 0285-40-0330(担当) 堀 在宅介護事業部 0285-23-2708(担当) 野中